



歩きたくなるまちなみ

本町通りの整備が一部完了し、趣のある通りが姿を現しました。建物の外観を町屋の雰囲気不改修する際に補助を行う「歴史的まちなみ景観創出事業」とあわせて、まちなかの雰囲気が変わりつつあり、今後も地区のかたがたと協働し、潤いのある景観を目指します。

CONTENTS

- 平泉寺発掘20周年
- 白山文化フォーラム2008
- がんばる企業展
- HOT話題

歴史の散歩道 (92)

顕海僧正と顕海寺

顕海寺は平泉寺の精進坂下の左側にある天台宗寺院である。白山平泉寺は天正二年（一五七四）四月十五日の一向一揆との戦いに敗れ、焼き討ちによって残らず灰燼に帰した。当時、賢聖院の院主でもあり白山平泉寺の学頭であった顕海僧正は、からくも戦難を避けて美濃との国境近くの桔梗原へ退去する。顕海僧正は、平泉寺賢聖院の充海僧正の門弟で、長く比叡山延暦寺で修行の後、天文十年（一五四一）冬、賢聖院の法脈を相続していた。桔梗原では、市布村の原左近の援助を得て留まるが、天正十一年（一五八二）二月、弟子の専海・日海と共に原左近の次男藤右衛門を伴って平泉寺の焼け跡に戻り、平泉寺の再興に着手する。当初、光浄院跡に草庵を結び、賢聖院と称した。そして、中宮三所の仮殿建立、同十九年には七間に四間の拝殿を跡地に建立。なお、賢聖院は、慶長二年（一五九七）今天神の社地（現在の平泉宮司邸）に移した。同院は故あって、寛政四年（一七九二）に玄成院と改める。顕海僧正は平泉寺復興の進む中、天正十五年（一五八七）四月に弟子の専海に賢聖院を譲って顕海寺を設けてここに隠居したが、同



写真上は顕海寺
写真下は阿弥陀如来坐像・地蔵菩薩立像
(訂正) 7月号の「義宣寺と同寺墓地」では、秀康から20万石を寄進されたとしましたが、20石の間違いです。

十七年十二月に病没した。顕海寺は江戸期になると、玄成院歴代の位牌所（霊屋）として、また門前百姓の無常所（墓地）でもあったが、明治維新の神仏分離令によって廃寺になるところを、檀徒代表の柳町助右衛門・原藤右衛門らの寝食を忘れた努力で廃絶をまぬがれた。同寺には二昧の県指定有形文化財の仏像が安置される。阿弥陀如来坐像（金銅鍍金造）は、高さ五二センチ。鍍金製で鍍金を薄く施してある。来迎印を結び、眼は伏し目で、右足を外にして結跏趺坐する鎌倉時代の優れた仏像といわれる。地蔵菩薩立像は高さ六四・一センチ、鍍金製で鍍金が薄く施され、裳をつけ天衣をかけ、左手をまげ、右手は垂れて掌を正面に向け、直立する鎌倉初期の仏像である。これらの仏像は、一向一揆の兵乱時には顕海が境内の池に沈めて守ったという。

勝山市文化財保護委員 増田公輔

人口の動き

	6月末現在	自然動態		社会動態		7月末現在	月間増減
		出生	死亡	転入	転出		
男	12,899人	6	12	19	26	12,886人	-13人
女	14,111人	6	9	20	27	14,101人	-10人
合計	27,010人	12	21	39	53	26,987人	-23人
世帯数	8,365世帯					8,369世帯	4世帯

編集後記
▼連日、記録的な暑い日が続いています。水分と休養は十分にとり、体調管理に気を配りましょう。▼今月初めのWRO福井地区予選会では熱い戦いが繰り広げられました。100分の1秒を争うほどになるくらいです。結果は、勝山市から小学生チームと中学生2チームが決勝大会へと進むことになりました。▼決勝大会は、各地区予選会を勝ち抜いた強豪ばかりが集まるため、さらに熱い戦いとなりそうです。体調を整え、悔いが残らないよう全力を出し切ってほしいものです。

交通事故発生状況 ※高齢者=65歳以上

件数内訳	平成20年7月末	前年比
総件数	264件	-28
人身事故(うち高齢者)	34件(5)	-19(-11)
死者(うち高齢者)	2人(1)	-1(-1)
傷者	35人	-24
物損事故	230件	-9

8月の納税

市県民税▶2期
納期限▶9月1日(月)
口座振替▶8月26日(火)

広告のお申し込みは 秘書・広報課まで